

## 阿蘇草原環境学習の指導者育成事業

NPO 法人 九州バイオマスフォーラム

代表 梶田 聖孝

熊本県

### I. はじめに

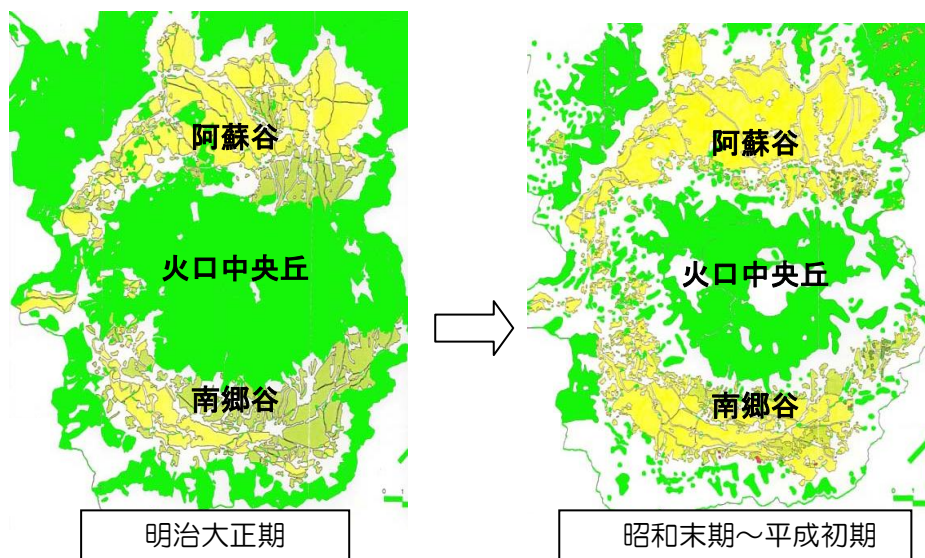
世界最大級のカルデラ地形の上に広がる広大で優美な阿蘇の草原は、わが国を代表する風景のひとつとして多くの人々を魅了してやみません。

この草原は、平安時代の記録に残されているように、採草、放牧、野焼きなど地域の人々の営みにより作り出されたものであり、農業を仲立ちとした自然と人間との共生により引き継がれてきました。千年もの長い間、草原の恵みを受け続けてきた地域は他に類を見ず、阿蘇の草原は阿蘇の地域社会とともに世界に誇れる資産といっても過言ではありません。

下の図の緑色の部分が草原を示しています。明治大正期に比べ、昭和末期から平成初期になると草原が大きく減少しているのが分かります。草原が人の手によって維持されてきたことが、結果として様々な動植物の生息・生育に象徴される豊かな草原環境を形づくってきました。

その草原が今、危機に瀕しています。生活様式や社会経済状況の変化から野草の利用が減り、さらに農畜産業の後継者不足や高齢化等から、これまでどおり維持管理の作業を続けることが困難になり、野草地面積の減少や荒廃が目立つようになりました。先人の知恵により守り継がれてきた豊かな自然に恵まれた草原が、その姿を変えつつあります。

### 野草地面積の変遷



資料：（財）国立公園協会「自然景観地における農耕地・草地の景観保全管理手法に関する調査研究」

## II. 趣旨・目的

### (1) 趣旨

国立公園である熊本県・阿蘇地域は人為的に野焼きが行われ、草を利用することで草原景観が守られてきましたが、過疎化や高齢化、家畜頭数の減少により「これからの草原保全」が課題となっています。

そこで、次世代の草原保全の担い手となりうる、主に小学生を対象として体験型環境学習を行い、草原が危機に瀕している現状や、草原保全のための課題について共に考える場（草原学習）を提供します。また、「草資源の有効活用等を通じた循環型社会の形成」を主眼において、野草の新たな利活用方法を提案し、野草の利用を拡大することで阿蘇の草原保全に寄与したいと考えます。

阿蘇の草原と阿蘇五岳



### (2) 目的

一般的に環境保全といえば人間が立ち入らないことをイメージしますが、実際に草原に行き草を刈ることで、身近な環境問題に興味を持ってもらい、阿蘇の草原が人の手による野焼きや採草によって守られてきたということ、また、草原が人の手によって維持されてきたことが、結果として様々な動植物の生息・生育に象徴される豊かな草原環境を形づくってきたことを学習します。

「草から紙を作る」ことで、農畜産業者に限られていた草の利用を、年齢・性別・居住地を問わず、様々な方々に阿蘇の野草を利用する機会を設けます。特に、阿蘇郡市内の地元の子供たちに自分の手で刈った草から紙を作ることで草原を身近に感じることができるだけでなく、資源の大切さや身近なバイオマスを利用することが資源循環型社会の形成につながることを学ぶ機会を作ります。また、地元の牧野組合の方々と交流をすることにより、守り継がれた「技」や「伝統」「文化」を体験し、将来の草原の担い手となり得る子ども達を育成することで、今後の草原保全につなげていくことを目的とします。

### Ⅲ. 平成 19 年度から平成 23 年度までの活動内容

#### (1) 概要

初年度である平成 19 年度は、試行錯誤しながらの 3 件の環境学習活動でした。翌年の平成 20 年度からは、徐々に参加学校数や地域のお祭り等での出展依頼が増えて行きました(表 1)。

活動を進めていく中で明らかになったことは、阿蘇の小学校のクラスの中でも牛を飼っている農家出身の子どもは 1 名程度で、初めて草原に出向く子どもたちが大半をしめていることでした。そこで、広々とした草原の中で自然とのふれあいを通して、阿蘇の草原について考える機会の提供を目的として、平成 21 年度から草原体験学習卒業証書づくりのプログラムの中に草原探索を入れました。その中では、地元の牧野組合の方や環境省のアクティブレんジャーにもご指導いただいています。

(表 1) 平成 19 年度(初年度)から平成 23 年度までの活動実績

内 容	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
草原体験学習卒業証書づくり (主に6年生を対象)	1校		3校	29名	4校	50名	6校	116名	9校	216名
出前講座や体験学習等 (6年生以外の学年)	1校	15名	3校	32名	2校	20名	4校	69名	4校	43名
放課後子ども教室					4校	156名	5校	138名	4校	190名
修学旅行・研修旅行 (主に中学生)			1校	56名	2校	76名	3校	90名	1校	25名
地域のイベント等	1件	13名	3件	103名	11件	437名	3件	100名	4件	530名
循環型社会啓発推進事業 (エコジュニア)	-	-	-	-	-	-	1園	114名	2園	305名
計	28名		220名		739名		627名		1,309名	

#### (2) 実施内容

平成 24 年度の学習プログラムの形成に至るまで、様々な試行と機材の製作を行ってきました。以下に、平成 19 年度から 23 年度まで 5 年間の活動内容について記載します。

##### (a) 草から紙ができるまでの実験 (平成 19 年度)

実際に草(ススキ)からどのような紙が出来るのか、またどのような工程で仕上がるのかを知るために、関連書籍を参考に野草からの紙づくりの実験を行い、ススキ 100%の紙を作成しました(表 2)。その結果、ススキだけの紙は平らな紙にならない、ススキの繊維がボコボコとしていて印刷ができないという課題が明らかになりました。そこで、和紙の原料であるパルプや楮を混ぜる等して紙の質を上げる事にしました。

(表 2) 野草紙づくり実験

<p>① ススキの茎と葉を 1~2cm の長さに切って量る。今回は 20g を準備。</p>		<p>② 鍋にススキが浸るくらいの水を入れて 20~30 分間煮る。</p>	
<p>③ 水が無くなりかけたら足す。その後冷まして水洗する。</p>		<p>④ ミキサーにかけて繊維を細かくする。</p>	
<p>⑤ 苛性ソーダと、粉石けんをススキの重量の 20% ずつ加え、1~2 時間さらに煮る。</p>		<p>⑥ 煮たススキをネットに移して充分水洗いする。</p>	
<p>⑦ ネットに入れたまま木槌で叩いて繊維を柔らかくする。</p>		<p>⑧ ぬるま湯に漂白剤(今回はハイターを使用)を入れ 30~40 分かけて漂白する。</p>	
<p>⑨ 漂白後の繊維。</p>		<p>⑩ でんぷんのりの水溶液とパルプをミキサーで攪拌し、漉き槽(プラ桶)に入れて漉く。</p>	
<p>⑪ 漉いた直後の漉き枠とススキのパルプ。</p>		<p>⑫ 冬季の室内の自然乾燥 4 日で完成したススキ紙。20g のススキで葉書サイズ 2 枚分ができた。</p>	

【参考資料】

- ・ 雑草からの紙作り (木魂社)
- ・ わかりやすい紙の知識 ((財) 紙の博物館)
- ・ 竹紙を漉く (文春新書)
- ・ 野草で紙を作る (創和出版)
- ・ 紙漉きキット (紙の博物館製)



(b) ススキの繊維化実験 (平成 19 年～22 年)

ススキの繊維化(写真 1)をする中で、3つの課題が出てきました。

- ・緑色のススキを煮ると茶色に変色する。(草原のイメージの緑を出したい場合)
- ・腐敗させて繊維を柔らかくさせると、紙になった後も腐敗臭が残る。
- ・ミキサーなどを使うと少量ずつしか作れず準備が間に合わない。

上記の課題を解決するには、繊維をすり潰して細かくする専用の機械(ビーター)が必要です。そこで、近隣の和紙工房から福井県の廃業した和紙事業者をご紹介いただき、中古のビーターを購入することができました。これにより、薬品を使わずに、水だけでススキが変色せずに自然の色合いのままで、大量のススキの繊維化(約2時間で完成)ができるようになりました。

福井の廃業した紙漉き業者から購入したビーター

その後、処理する前にススキを一旦冷凍保存し、灰汁と一緒にビーター処理を行う事で、さらに1時間程度の時間短縮につながりました(写真 2)。

なお、ススキの茎の部分は固く、繊維化処理しても柔らかい繊維になりにくいので、野草紙として紙になった時にボコボコとしていて卒業証書用の紙には向かない事が分かりました。そこで、ススキの葉の部分だけを使用することになりました。



**写真 1** 薬品を使わないススキ繊維化実験

水に浸けて腐敗させる



ススキの繊維とり実験



ミキサーでの実験



**写真 2** ビーター購入後のススキの繊維化

ビーターに冷凍したススキと灰汁投入



40 分後



約 1 時間後、完成



(c) 乾燥機(パネルヒーター)の製作 (平成 20 年～22 年)

初年度である平成 19 年度は、漉いた和紙を昔ながらの天日干しで乾燥させましたが、風で飛んだりして表面が滑らかにならない等の課題が明らかになりました(写真 3)。その後、ズボンプレッサーを改造して乾燥機を製作(写真 4)。最終的にはステンレスの板の裏に電熱線を張り、コンパクトで持ち運びしやすい移動可能な乾燥機を手作りで製作したことで、印刷(インクジェット)もできる良質の紙が出来るようになりました(写真 5)。20～30 分程で乾燥できるので、大人数にも対応可能となりました。

写真 3 野草紙の天日干し



写真 4 ズボンプレッサーを

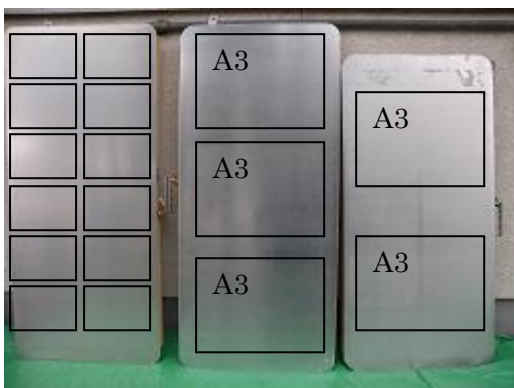
乾燥機に改造して実験



写真 5 手作りで製作した乾燥機 (パネルヒーター)

A3 サイズなら 1 枚に 2～3 枚貼れる  
ハガキは 2 枚 1 組が 10～12 枚貼れる

押し花を漉きこんだハガキを乾燥中



(d) 吸水ボックスの製作（平成 22 年）

漉き桁(すきげた：紙を漉く専用の枠)から紙を剥がして早く乾燥させるには、漉いた紙の水分をある程度取る必要があります。その為に当初から使用していたものは、水も吸える業務用の掃除機の先に、切れ目を入れたアクリル板を張り付けたシンプルなものでした。この吸水機は子ども 1 人では使用できない為、スタッフのサポートが必要でした(写真 6)。そこで、平成 22 年にステンレス製のオリジナル吸水ボックスを製作し、水も吸える業務用の掃除機につなげることで、子ども 1 人でも作業できるようになり、人員削減と時間短縮にもなりました(写真 7)。

写真 6 改良前の吸水機

スタッフのサポートが必要



写真 7 改良後の吸水機

子ども 1 人でも作業が可能



(e) 漉き槽の製作、改良（平成 20 年~21 年）

卒業証書である A3 サイズの紙を漉くには、漉き槽（原料と水を入れて紙を漉く為の入れ物）の大きさと深さが必要です。当初は簡易の浴槽を使用し、片付け時にはバケツで原料を排出していました。その後平成 20 年に学校で出前体験ができるように、移動可能で一度に 2 人の紙漉きができる大きさがあり、底にホースを繋げられる排水口のあるステンレス製オリジナル漉き槽を製作しました。2 人同時に紙漉きが出来ることと排出時の片付けで、全体的な時間短縮になりました(写真 8)。

ハガキの紙漉きには、以前は衣装ケースを使用していましたが、平成 21 年度からはホームセンター等で購入できる「角型タライ」を使用しています。底に排水口もある為片付けも楽になり、使い勝手は良好です(写真 9)。

写真 8 卒業証書作成用漉き槽

移動式ステンレスの漉き槽(キャスター枠は取り外し可能)



写真 9 ハガキ用漉き槽

角型タライを使用



(f) 環境学習プログラムの構築（平成 20 年）

主に小学 6 年生を対象とした環境学習プログラムで活動をしています。流れとしては、①事前学習、②ススキ刈りと草原体験学習（草原探索）、③卒業証書用の紙漉き体験です。学習内容は（表 3）のプログラムの通りとなります。

（表3）環境学習プログラム

内容	場所	講師	実施月	所要時間
<b>①事前学習(写真10)</b>				
環境省アクティブレンジャーとの連携で、阿蘇の草原についての基本的な学習をパワーポイントを使ったスライドや当団体で作成した紙芝居などを用いて学習します。平成24年度より、環境学習DVD(※1)と紙芝居(※2)を使って担当教諭から学習をしていただいています。	各小学校 教室など	・アクティブレンジャー ・KBF担当者 ・担当教諭	9～10月	1コマ (※3)
【準備するもの】学校…ワークシート、DVDデッキとテレビ又はパソコンとプロジェクター KBF…紙芝居				
<b>②ススキ刈りと草原体験学習(草原探索)(写真11)</b>				
地元の牧野にバスなどで移動し、実際に牧野で作業をされている牧野組合長などの方々から、草原のことや牧野の話等を聞きます。その後ススキを鎌で刈り、茎と葉の選別をして葉の部分だけを当団体が持ち帰ります。 ススキ刈りの後は、環境省アクティブレンジャーの「草原探索」で、草原にある動物の痕跡や植物の種類や花、昆虫などの観察をして自然を楽しみながら学習します。	地元の牧野	・地元牧野組合長等 ・アクティブレンジャー	9～10月	2～3コマ
【準備するもの】学校…草刈り鎌、救急箱、ワークシート、草を持ち帰るビニール袋など 子ども…軍手、水筒など、動きやすい服装など(長袖・長ズボン・帽子)				
ススキの繊維化の処理(写真2)（当団体スタッフがいきます）				
子どもたちが刈り取ったススキの葉を一旦冷凍保存し、灰汁と一緒に当団体所有のピーターで繊維化処理します。化学薬品等は一切使用しません。	当団体倉庫 (機材移動ができない為)	-	10～11月	3時間程度 (準備・片付け含む)
<b>③卒業証書の紙漉き体験(写真12)</b>				
紙漉き機材一式を学校に持参して行います。「子ども達が刈り取ったススキを繊維化したもの」と、和紙の原料である「楮」と「パルプ」を原料とした卒業証書又は卒業記念品となる紙を1人2枚ずつ漉きます。乾燥時間は20～30分ほどで、当日に出来上がります。 ※時間内に乾燥出来なかった分は、スタッフが残って乾燥させます。	各小学校 (家庭科室など水を使える場所)	・和紙工房の方 ・KBF担当者	11～1月	1～2コマ (人数による)
【準備するもの】学校…雑巾、新聞紙(5日分くらい)、ドラムコード 子ども…タオル、エプロン(あれば)				

(※1)「阿蘇の草原環境学習導入用DVD～阿蘇の草原すてき大発見!～」

H24阿蘇郡市内小学校に「阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会」から配布

(※2)当団体所有の「阿蘇の草原学習」オリジナル紙芝居 (※3)1コマ=1時限(主に45分)



写真 10 事前学習

環境省アクティブレジャーの授業



DVD と紙芝居を使った担当教諭の授業



写真 11 草原体験学習とススキ刈り

地元の牧野組合長の話



ススキ刈り 刈り方を教わる



草原探索 花の種や昆虫の観察



草原探索 何かを観察中

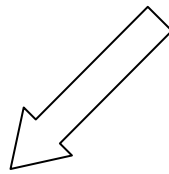


**写真 12** 卒業証書の紙漉き体験(矢印が行程)

ススキ入りの紙を漉く(均一になるようにコツが必要)



吸水機で水分を取る



乾燥機(パネルヒーター)で紙を乾かす  
(布でたたいてしっかりと張り付ける)



完成了ました!



草原体験学習と紙漉き体験には、多くのメディア(地元新聞や広報、地元 TV のニュースなど)で取り上げられました。(最終頁に一部を紹介しています)



#### IV. 平成 24 年度の活動

##### (1) 課題

平成 19 年～23 年までの 5 年間の環境学習活動が阿蘇市内外の学校にも広がり、参加して頂ける学校が増えてきました。環境学習の実施学校数が増えた事により、現状の体制では新規の学校に対応する事が難しい状況になりました。そこで、ボランティアを地域の方々や活動への賛同者の中から募集し、指導者の育成を行うことで体制の強化を図りたいと考えました。

##### (2) ボランティアの募集と育成

ポスターやチラシを作成し、ボランティアを 10 名程度募集しました(写真 13)。学校や地域商店街にポスター 25 枚とチラシ 500 枚を配布し、ボランティア研修会として募集しましたが、参加希望者との日程が合わない事もあり、研修日には開催できませんでした。そこで、ボランティア希望者には、卒業証書紙漉き体験の小学校へ直接参加して頂き、開始前 1 時間程度の当団体活動内容紹介や、紙漉き工程の説明と紙漉き体験を行い、その後の卒業証書紙漉き体験の補助としての活動をして頂きました(写真 14)。

ボランティアに参加された方には、この活動を「楽しい。お手伝いできる時には参加したい。」と言って頂き、今後ボランティア活動に参加して頂けるようになりました。

体験への初回の新規ボランティア参加者は 3 名でしたが、ボランティア参加者のご友人やお知り合いの方に活動を広めて頂き、最終的に平成 24 年度新規ボランティアは 5 名となりました。これで以前からお手伝いいただいている方 5 名と併せて 10 名になり、今後は大人数校にも対応できるようになりました。

写真 13 ボランティア募集チラシとポスター



写真 14 ボランティア紙漉き体験

ハガキサイズの紙漉きを体験中



中通小学校の皆さんとボランティア参加の皆さん



平成 24 年 12 月 14 日(金)午前中に、紙漉きボランティアを対象として、活動の目的について研修会を開催しました。午後は、場所を青少年交流の家大会議室に移し、紙漉きの研修をしました。それぞれの工程をしっかり把握して頂き、今後はどの工程でも補助して頂けるようになりました(写真 15)。

平成 25 年 1 月 12 日(土)には、環境学習の新規プログラムとして、ススキのフクロウづくりの研修会をしました。環境省のアクティブレジャーに講師をお願いし、阿蘇の草原にいるフクロウについての学習や、ススキのフクロウの作り方を教わりました(写真 16)。

ススキのフクロウづくりの活動は、ススキで卒業証書をつくる活動と同じく、小学校の環境学習の一環として行われる学習です。今後の環境学習の一つとして、依頼があれば活動出来るようになりました。

### 写真 15 ボランティア研修会 (12/14)

【座学】阿蘇の草原の現状などの学習



【体験】それぞれの工程のコツなどを知る



### 写真 16 ボランティア研修会 (1/12) 【ススキのフクロウづくり】

阿蘇の草原のフクロウについて

一つ一つの工程を聞きながら制作

できあがり





V. 平成 24 年度の成果と今後の目標

(1) 平成 24 年度の成果

平成 24 年度は、タカラ・ハーモニストファンドの助成金で、活動の課題であったボランティア育成ができ、合計 10 名のボランティアが誕生しました。活動実績は、草原体験学習と卒業証書づくりの活動をした小学校が 6 校 101 名、紙漉き体験学習（6 年生以外）には小学校 2 校 84 名、その他にも 11 件 619 名の体験を行い（表 4）、ほとんどの活動へボランティアに参加して頂きました。

さらに、スタッフジャンパーとハガキの漉き桁も購入・製作できました（写真 17）。平成 24 年度は 20 回の紙漉き実施と研修会実施に対して、延べ 51 名のボランティアの方に参加して頂きました（表 5）。ボランティア募集をした後（平成 24 年 11 月 5 日以降）にはボランティア参加者が増え、体制が整ったことで大人数にも対応できるようになりました。

なお、平成 24 年 10 月 5 日に「第 21 回くまもと環境賞 循環型社会賞」を受賞し、蒲島熊本県知事より賞状を頂きました。続いて、12 月 12 日には平成 24 年度「地球温暖化防止活動環境大臣賞 環境教育・普及啓発部門」をW受賞し、長浜博行環境大臣から表彰状を頂きました（写真 18）。

（表）4 平成 24 年度の活動実績

内 容	平成24年度	
	校数	人数
草原体験学習卒業証書づくり (主に6年生を対象)	6校	101名
出前講座や体験学習等 (6年生以外の学年)	2校	84名
放課後子ども教室	1校	27名
修学旅行・研修旅行 (主に中学生)	7件	332名
地域のイベント等	3件	260名
循環型社会啓発推進事業 (エコジュニア)	-	-
計		804名

写真 17 作成できたもの  
ハガキ用と A5 の漉き桁



スタッフジャンパー（黄緑）を着用して  
作業中のボランティアの方



写真18 受賞した賞状など

第21回くまもと環境賞 循環型社会賞



地球温暖化防止活動環境大臣賞 環境教育・普及啓発部門賞状



平成24年度「地球温暖化防止活動環境大臣賞 環境教育・普及啓発部門」授賞式での集合写真



当団体理事長  
栢田聖孝が出席

(表5) 平成24年度ボランティア参加状況

	開催日	体験者	参加人数	内容	ボランティア参加人数
1	4/14	(香川)坂出中学校2年生	19	ハガキ	1
2	4/26	(福岡)西南学院中等部2年生	25	ハガキ、壁掛け	1
3	6/2	(交流の家)ファミリー参加者	80	ハガキ	0
4	6/10	(交流の家)みんなの広場来場者	80	ハガキ	0
5	8/1	(交流の家)ふる里体験参加者	55	ハガキ	0
6	8/18	(熊本)春日小学校6年生と保護者	74	ハガキ、壁掛け	3
7	10/21	(交流の家)みんなの広場来場者	100	ハガキ	0
8	10/22	(交流の家)タイ高校生	30	ハガキ、壁掛け	3
9	10/23	宮地小学校5年生	82	A5サイズ	3
10	11/5	中通小学校5～6年生	5	5年生 A5サイズ 6年生 A3(卒業証書)	5
11	11/8	碧水小学校6年生	40	A3(卒業証書)	3
12	11/12	古城小学校6年生	10	A3(卒業証書)	3
13	11/27	坂梨小学校6年生	18	A3(卒業証書)	1
14	11/29	阿蘇西小学校6年生	16	A3(卒業証書)	3
15	11/30	山田小学校6年生	13	A3(卒業証書)	3
16	12/14	紙漉きボランティア研修会	-	ハガキ	7
17	12/15	(交流の家)ハッピー・クリスマス参加者	60	ハガキ	3
18	1/12	ボランティア学習会	-	スキのフクロウ作り	6
19	2/3	(交流の家)あったかフェスティバル来場者	100	ハガキ	2
20	2/19	山田小学校放課後子ども教室	27	ハガキ	4
合 計					51

※ハガキ＝2枚1組(1回の紙漉きで2枚のハガキサイズの紙が漉ける)

※壁掛け＝ハガキサイズの紙を、飾り付けた厚紙に張り付け、下げるための紐を付ける

(2) 今後の目標

身近なバイオマスを利用することで資源循環型社会の形成につながることや、資源の大切さを学ぶために、平成19年度から平成24年度の6年間、様々な試行錯誤をしながら、小中学生を対象とする環境学習の活動を行ってきました。平成24年度は「第21回くまもと環境賞 循環型社会賞」や「地球温暖化防止活動環境大臣賞 環境教育・普及啓発部門」をW受賞することができました。また、新規の学校に対応するための実施体制の強化が課題でしたが、タカラ・ハーモニストファンド活動助成金を頂いたことでボランティア育成も達成できました。今後も学校やイベント出展などを通して、草原保全やバイオマスに対する関心を高める機会を増やすことが重要だと考えます。そのためには、今後以下の課題に対して取り組んでいく必要があります。

- ①バイオマスを身近に感じてもらえるような、環境学習メニューの拡大。
  - ②助成金に依存しているので、寄付金や物品販売など、多様な財源を確保する。
- 平成25年度以降は、上記の課題を解決するために取り組んでいきます。

この活動の新聞記事(一部)

<p>2011年3月24日 熊本日日新聞</p>	<p>熊本日日新聞 平成23年(2011年)3月24日 木曜日</p> <p>阿蘇市の坂梨小で23日、卒業式があり、草原のススキを原料にした卒業証書が20人の卒業生に授与された。卒業生は「ちよびり草の香りが」とうれしそうに証書を受け取り、学びやを去っていった。</p> <p>証書(縦30センチ、横40センチ)作りは、NPO法人九州バイオマスフォーラムが草原維持に関心を持ってもらおうと毎年企画。同小のほか、1～2月ごろに産山、中通、山田の各小でも阿蘇地域のススキを原料にした紙すき指導をした。保護者約40人が見守る中、星山見校長から一人一人に卒業証書が手渡された。4月から熊本市内の中学校に通う佐藤吉一君は「証書作りを通じ、ふるさとに愛着がわきました」と話していた。(佐藤大樹)</p> <p><b>「草の香り」ススキの証書</b> 阿蘇市・坂梨小</p>  <p>ススキを原料にして作った卒業証書を手を持つ児童ら＝阿蘇市の坂梨小学校</p> <p><b>思い出胸に卒業式</b></p>	<p>2012年11月6日 熊本日日新聞</p>
<p>2012年10月4日 熊本日日新聞</p>	<p>平成24年(2012年)10月4日 木曜日</p> <p>阿蘇市の中通小の児童が3日、北外輪山の水落牧野で、卒業証書の和紙作りに使ったススキを刈った。NPO法人九州バイオマスフォーラムが、草原に関心を持ってもらおうと企画した。</p> <p>児童は5、6年生の6人、斜面を覆う高さ1メートルほどの草をかき分けて、葉が緑色のススキを鎌で刈り取った。植物の観察会もあり、地面に顔を近づけてリンドウやウメバチソウのつぼみを探した。</p> <p>6年の笹原愛君は「草原はお気に入りの場所です。久しぶりに来たのでわくわくと声を弾ませました。刈ったススキは繊維状にして11月に和紙にすき、卒業証書や卒業記念品に使う。ススキ刈りと紙すき体験は阿蘇市の6小が参加する。」(佐藤大樹)</p> <p><b>牧野でススキ刈り</b> 阿蘇市・中通小 卒業証書に加工</p> <p>ふれすけ おすすめ</p>  <p>鎌でススキを刈り取る児童ら＝阿蘇市の水落牧野</p> <p>卒業証書の用紙を作る児童たち＝阿蘇市の中通小</p> <p>取得組むNPO法人九州バイオマスフォーラムの職員が指導。5年生1人も参加して、刈り取ったススキを水に浸せたり、乾燥させたりする作業をした。愛君は「卒業が近づいてきて、母が泣いてくれたのが、母校がなくなると感じた。同じ小の児童は17人で、来年4月宮地小に統合される。」(佐藤大樹)</p>	<p>卒業証書は「草の香り」阿蘇・中通小 ススキをすく</p> <p>本年度で閉校となる阿蘇市の中通小の6年生4人が6日、草原のススキを使った紙すきに挑戦。最後の卒業生として自分たちが来春に受け取る卒業証書の用紙を作った。</p> <p>取得組むNPO法人九州バイオマスフォーラムの職員が指導。5年生1人も参加して、刈り取ったススキを水に浸せたり、乾燥させたりする作業をした。愛君は「卒業が近づいてきて、母が泣いてくれたのが、母校がなくなると感じた。同じ小の児童は17人で、来年4月宮地小に統合される。」(佐藤大樹)</p>